

令和 5 年 5 月 15 日現在

機関番号：32501

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2022

課題番号：19K14130

研究課題名(和文)学習者の多様性に対応する「国際バカロレア(IB)教授モデル」の解明

研究課題名(英文)Explaining how the IB educational model applies to diverse learner's

研究代表者

御手洗 明佳(Mitarai, Sayaka)

淑徳大学・教育学部・准教授

研究者番号：00725260

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 1,600,000円

研究成果の概要(和文): 本研究の目的は、インターナショナルスクールから端を發し生徒の多様性に基づきながら、包括的な資質・能力の涵養をおこなう「IB教授モデル」の特質を特定することである。研究の結果、「IB教授モデル」を支える主要な教育理論として、1. 物事の表面的な理解にとどまらず、本質的な部分に迫るよう、概念の理解を深めるように構成されていること(「概念型学習」)。2. カリキュラムで到達すべき最終ゴールから逆向きに授業が設計されている(「逆向き設計論」)。3. パフォーマンスの程度を諮るためのルーブリック(評価指標)が生徒に示されている(「パフォーマンス評価」)の特質を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

現行学習指導要領の指針にてアクティブラーニングの導入が明記され学習者の主体的な学びの促進が期待される一方、これまで以上に意欲/学力格差の拡大も懸念される。従来の学力の獲得よりも「資質・能力」の獲得は目に見えづらく、個人のパーソナリティや価値観、態度までも含む広い概念であるため、能力獲得が難しいことや学習者の家庭的背景に起因しやすいとの懸念を指摘を受け、本研究では、多様な文化的・社会的背景をもつ生徒が学校内の授業において「資質・能力」の育成できるように「IBの教授モデル」の特質を特定し、日本の学校にて活用できるよう「IB型指導案フォーマット」の開発を行なった。

研究成果の概要(英文): The purpose of this study is to identify the characteristics of the "IB Teaching Model. This teaching model is characterized by its ability to respond to the diversity of students and to cultivate competencies.

As a result of our research, we identified the following three main educational theories that support the IB Teaching Model: 1. the curriculum is structured to deepen the understanding of concepts so that students can not only understand things superficially but also get to the essential parts of things ("Concept-Based Curriculum and Instruction"); 2. the lessons are designed in a backward direction from the ultimate goal to be achieved in the curriculum ("Backward Design"); 3. the degree of performance is reviewed. 3. the rubrics for performance assessment are presented to students ("Performance assessment").

研究分野：教育社会学

キーワード：国際バカロレア 教授モデルの開発 多様性への対応 中等教育 学習者中心 教育方法 カリキュラム

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

2019年改訂学習指導要領の指針にてアクティブラーニングの導入が明記され学習者の主体的な学びの促進が期待される一方、これまで以上に意欲/学力格差の拡大も懸念されている。

家庭的背景による学力格差は教育社会学の主要なテーマである(Bernstein, B. 1978, 1996, P. Bourdieu, P. and Passeron, J.C. 1964等)。日本でも、過去10年ほどの間にそれを示す実証的研究が増えてきており(苅谷・志水 2004他)それに伴い、家庭的背景の恵まれた子どもがどのようにして高い学力を獲得しているのか、そのメカニズムを明らかにするために、学習時間、学習意欲、学校外学習に注目した研究(お茶の水女子大学 2014)や、厳しい社会的・経済的・文化的背景をもつ状況にありながらも学力格差是正に効果を上げ続けている学校を特定し「効果のある学校」としてその特徴を示す研究(志水 2009)などその解消に向けた研究が行われてきている。しかしながらこうした状況に加え、今後更なる学力格差の増大が懸念されている。それは知識基盤社会の到来により、従来の「知識」重視の学力観からより包括的な「資質・能力」を育成することを目指す学力・能力観への移行による。本田(2005)によれば、従来の学力の獲得よりも「資質・能力」の獲得は目に見えづらく、個人のパーソナリティや価値観、態度までも含む広い概念であるため、能力獲得が難しいことや学習者の家庭的背景に起因しやすいとの懸念を指摘している。

これを受けて本研究では、学力格差是正策のための他のアプローチの一つとして、同じ教室内に、異なる背景・ニーズをもつ子どもが共存するという前提に立ち「資質・能力」を育成する教育方法(の開発・強化)に着目する。「学力格差」の問題を家庭的背景など学校外の問題にのみ結びつけるのではなく、社会的・経済的・文化的背景や個々のニーズと同様、生徒がもつ「多様性」や「学習者主体」の概念から捉え直すことにより、教育方法開発の文脈から改めて検討する。

2. 研究の目的

本研究は、異なる背景・ニーズをもつ子どもが共に学ぶインターナショナルスクールで開発された教育プログラム「国際バカロレア(International Baccalaureate、以下、IBとする)」に注目し、そこで展開される多様性や差異を強みとする教育手法の可能性を探ることを目的とする。これを「IB教授モデル」として抽出し、その特質や構造を解明することで画一的と指摘される日本の教育への適応可能性、すなわち、日本でも教育課題として挙げられている(1)「資質・能力」を涵養すること、(2)学習者への多様性への配慮、に対応する教育方法のIB認定校以外の教育現場への適応可能性についても検討を行う。

3. 研究の方法

本研究の方法として定性的調査手法である「指導の差別化」概念(Ex:「Tomlinsonモデル」)を用いた。学習者のニーズを満たすための差別化した指導の具体的プロセスや構成要素を明らかにすることが期待される。これは、これまでの教育社会学が「ブラックボックス」として扱ってきた定量的調査で見逃されがちであった教室内部の様子をもとに実証的データとした。なお、「Tomlinsonモデル」とは、米国のトムリンソンによって開発されたモデルであり、学びの履歴や興味関心の異なる学習者へ対しての適切な応答について授業実践を細かく細分化(内容、手順、影響、学びの環境等)することで検討する手法である。歴史的にみて、メインストリームから外れ極めて厳しい状況のなか、子どもの「多様性」や「個別性」を強みとして戦略的に教育実践を積み上げてきた国際理解教育の分野の教員の取り

組みに注目し、「IB の教授モデル」として特質を明らかにすることを目指した。

4 . 研究成果

研究の結果、「IB 教授モデル」を支える主要な 3 つの教育理論の存在を複数科目の分析、教員へのインタビュー及び授業参観を通して確認した。第一に、物事の表面的な理解にとどまらず、本質的な部分に迫るよう、概念の理解を深めるように構成されていること(すなわち、「概念型学習 (Concept-Based Curriculum and Instruction) 」の存在)。第二に、カリキュラムで到達すべき最終ゴールから逆向きに授業が設計されている(すなわち、「逆向き設計論 (Backward Design) 」の存在)。第三に、パフォーマンスの程度を諮るためのルーブリック (評価指標) が生徒に示されている(すなわち、「パフォーマンス評価 (Performance assessment) 」の存在)である。

こうした「IB 教授モデル」の核となる教育理論の存在を明確化してうえで、もう一つの課題であった IB 認定校以外の日本教育現場での適応可能なのかについて検討した。現行の学習指導要領の方針を明らかにしたうえで、「IB 教授モデル」で用いられる諸教育理論を援用する新たな学習指導案 (「IB 型指導案フォーマット」と命名した) の開発を行なった。この「IB 型指導案フォーマット」は、全教科での活用が可能であり、(1) 「資質・能力」を涵養すること、(2) 学習者への多様性への配慮、に対応する教育方法の実施が可能である。一連の研究成果は、編著『国際バカロレア教育に学ぶ授業改善 : 資質・能力を育む学習指導案の作り方』(北大路書房)として刊行した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 木村光宏・御手洗明佳	4. 巻 9(2)
2. 論文標題 公立高校の教員は国際バカロレアの教育効果をどう認識しているか（日本語DP導入校へのフォーカス・グループ・インタビューを通して）	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 グローバル人材育成教育研究	6. 最初と最後の頁 84-94
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.34528/jagce.9.2_84	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 御手洗明佳・中島悠介・柳田雅明	4. 巻 29(1)
2. 論文標題 外国カリキュラムを提供する学校への公的関与のあり方に関する一考察 - ドバイにおける学校監査を事例として -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 早稲田大学大学院教育学研究科紀要別冊	6. 最初と最後の頁 25-35
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 15.Wataru Hanai・Hiroki Nakanishi・Naohiro Iida・Sayaka Mitarai・Masaaki Yanagida	4. 巻 5
2. 論文標題 Bridging the Academic-Vocational Divide in Secondary Education: A curriculum Analysis of the International Baccalaureate Career-related Programme in England	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 The Journal of Research into IB Education	6. 最初と最後の頁 31-42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.50923/ibjournal.5.0_31	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 御手洗明佳、松本暢平、江幡知佳、齊藤貴浩、菅井篤、木村光宏、菊地かおり	4. 巻 6
2. 論文標題 国際バカロレア・ディプロマプログラム（IBDP）初年度生の学習経験とコンピテンシー - 「高校での学習・経験に関する実態調査」（2021年度）の分析から -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 国際バカロレア教育研究	6. 最初と最後の頁 71-82
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木村光宏、菅井篤、江幡知佳、松本暢平、齊藤貴浩、菅井篤、菊地かおり、御手洗明佳	4. 巻 6
2. 論文標題 国際バカロレア経験者が考える「国際的視野」の特徴 - テキストマイニングによる生徒記述の比較分析 -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 国際バカロレア教育研究	6. 最初と最後の頁 83-94
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計9件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件)

1. 発表者名 御手洗明佳、松本暢平、齊藤貴浩、菅井篤、江幡知佳、木村光宏、菊地かおり
2. 発表標題 ディプロマプログラム (DP) 履修生が身につけるコンピテンシーの特質 - 「高校での学習・経験に関する実態調査」(2021年度)の分析から -
3. 学会等名 日本国際バカロレア教育学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 木村光宏、菅井篤、江幡知佳、御手洗明佳、松本暢平、菊地かおり
2. 発表標題 ディプロマプログラム (DP) 履修生が考える「国際的視野」の特徴 - テキストマイニングによる生徒記述の分析を通じて -
3. 学会等名 国際バカロレア教育学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 御手洗明佳
2. 発表標題 IBの教育効果研究に関する国際的動向 - 2010年～2020年に焦点を当てて -
3. 学会等名 教育の国際化研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名	柳田雅明、御手洗明佳、飯田直弘、花井渉、中島悠介、シムチュンキャット、中西啓喜、赤塚祐哉
2. 発表標題	職業キャリア教育プログラムにおける国を超える枠組みは、各国・地域でどう機能するのか - 国際バカロレア・キャリアプログラム (IBCP) を例にしてイングランド・UAE(ドバイ)・シンガポールで比較検討する -
3. 学会等名	日本教育比較学会第55回大会
4. 発表年	2019年

1. 発表者名	御手洗明佳、中島悠介、柳田雅明
2. 発表標題	多様な個に応じたキャリア・職業教育の設計と進路形成 ドバイにおける国際バカロレアキャリア関連プログラムを事例として
3. 学会等名	日本カリキュラム学会第30回大会
4. 発表年	2019年

1. 発表者名	Yanagida, Masaaki; Sim, Choon Kiat; Hanai, Wataru; Mitarai, Sayaka; Akatsuka, Yuya; Nakajima, Yusuke; Nakanishi, Hiroki; Iida, Naohiro
2. 発表標題	Is it fruitful for vocational and career education to develop transnational system design?: Comparative study of the International Baccalaureate Career-related Programme (IBCP) in England, UAE(Dubai) and Singapore
3. 学会等名	WERA2019 (国際学会)
4. 発表年	2019年

1. 発表者名	御手洗明佳
2. 発表標題	IBの教育効果に関する研究プロジェクトについて
3. 学会等名	日本国際バカロレア教育学会第7回大会 パネルディスカッション報告
4. 発表年	2022年

1. 発表者名 御手洗明佳、木村光宏
2. 発表標題 国際バカロレア履修生が身につける資質・能力
3. 学会等名 日本教育社会学会第74回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 木村光宏、御手洗明佳
2. 発表標題 国際バカロレア履修生の学びと経験 自身の成長をどのように捉えているのかー
3. 学会等名 日本教育社会学会第74回大会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 御手洗 明佳、赤塚 祐哉、井上 志音、木村 光宏	4. 発行年 2023年
2. 出版社 北大路書房	5. 総ページ数 192
3. 書名 国際バカロレア教育に学ぶ授業改善	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>教育の国際性向上に向けて 国際バカロレアへの期待とイギリスからの示唆 https://synodos.jp/education/22883</p>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------